

2012年11月9日

医薬経済・イノベーション評価研究会（略称：キヤノン HTA 研究会）
2012年10月25日（木）開催 第六回研究会記録

産業界側のHTA 対応に関連して、以下のような情報の紹介とディスカッションが行われた。

1. CIGS 鎌江伊三夫より、HTAのトレンドとして、海外製薬企業（Global、Asia）におけるトレーニングの事例について紹介。
 2. 参加者より、各社におけるHTAの取り組み状況について報告し、ディスカッションを行った。
- 医療機器業界では、AMDDにおいて、HTAとは何かについて、Oregon Health Planを事例に勉強会を開いた。
 - 本件について、鎌江より、平成11～13年度科学研究費助成事業の濃沼班「オレゴンヘルスプランの方法論とその社会的インパクトに関する研究」の紹介があった。また、Oregon Health Planが機能しなかった背景として、QALYの適用そのものというより、効用値などのデータの信頼性や利害関係者からの圧力による調整が挙げられるとの意見が出された。
 - 参照：濃沼班「オレゴンヘルスプランの方法論とその社会的インパクトに関する研究」
 - <http://mhlw-grants.niph.go.jp/>より検索可能
 - 医療機器について、改良製品を出しても、診療報酬は手技につくため、材料価格に反映されない場合があること、機能区分と加算は1：1では無いことが紹介され、医療機器業界では、団結して診療報酬改定に臨む傾向があることが紹介された。
 - 本件について、一般にデバイスラグはドラッグラグより大きく（約10年）、導入品が多く、業界が小さいため、業界内の関係が密接であるとの意見が出された。
 - HTAの導入にむけて、歴史の古いオーストラリアの事例をベンチマークとして取り上げている企業の事例の紹介がなされた。
 - 今春より、HTA本格化に対応できるよう、社内啓発活動の取り組みが報告された。
 - 本件について、鎌江より、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス誌の来年1月

号に、鎌江、EFPIA会長他の対談が掲載される予定であるとの紹介がなされた。

- GlobalでのHTAの事例について、担当者が詳細な情報を開示しないため、情報が入手しにくく、社内での情報共有が十分にできていないとの課題が挙げられた。
- 各社のHTAの取り組み（専門部署の有無、情報収集、導入時の対応など）についてJPMAによるアンケートが行われていることの報告があった。
- 早急にHTAが導入になることはないと考えており、企業内で警戒をしていないし、課題にも挙げられていないとの意見があった。なお、HTAが導入された場合、企業内に専門部署を配置する以外にも、CRO（医薬品開発業務受託機関）への外注が検討されるとのことであった。
- アカデミアの参加者より、心肺蘇生の医療費への効果、薬価と開発戦略の関係などについての研究を行っていることが紹介された。

<その他>

- ・次回以降の開催予定

第七回 11月21日 17:30～19:30 ISPOR ベルリンの報告（予定）

第八回 12月19日 17:30～19:30

（記録：研究会メンバー グループ A）